

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2019/12/18
所属学部・ 研究科・学府	国際教養学部
所属学科・専攻	国際教養学科

1. 留学先について

留学先大学名	Monash University											
留学先所属学部等	Arts											
留学期間	出発日	2019/2/15	入学日	2019/2/18	修了日	2019/11/19	帰国日	2019/11/30				
住居	大学(紹介)の寮・アパート	<input checked="" type="checkbox"/>	民間アパート	<input type="checkbox"/>	その他()							
	通学時間						<input checked="" type="checkbox"/>	On campus				
	通学方法	徒歩										
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/>	個室	()	人部屋	その他()						
	共有スペース	<input type="checkbox"/>	完全個室	<input checked="" type="checkbox"/>	キッチン	<input checked="" type="checkbox"/>	トイレ	<input checked="" type="checkbox"/>	バス	<input type="checkbox"/>	リビング	<input type="checkbox"/>
食事	自炊	80 %	学食	15 %	外食	5 %	その他	() %				
保険	海外旅行保険(名称)	AIG損保海外旅行保険										
	派遣先大学指定の保険(名称)	Overseas Student Health Cover					<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入					
	その他											
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウイスコンシン(電車)											
	成田 ⇄ マニラ(飛行機乗り継ぎ、行きのみ) ⇄ メルボルン(飛行機)											

2. 留学にかかった費用について

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	インターネット上でクレジット支払い
住居にかかった費用	インターネット上でクレジット支払い
その他	

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
			※	有	無
1 Human Rights Theory I	正規	6	※	有	無
2 Introduction to Sociology	正規	6	※	有	無
3 Complexity of Crime	正規	6	※	有	無
4 Crime and Inequality	正規	6	※	有	無
5 Cybercrime	正規	6	※	有	無
6 Human Rights Theory II	正規	6	※	有	無
※それぞれの授業の単位は互換しないのですが、所属学部独自の留学期間の長さに応じて取得できる単位を取得する予定です。					

3-1. 授業科目の選択、登録方法

前期の履修科目は、渡航前の手続きの際に申請し、渡航後の始業式の際に正式に決定しました。学期開始の前後に、申請したものと違う科目の履修や取り消しが可能でした。後期は前期の授業期間が終了した後に学部窓口で直接申請しに行きました。科目を選択する際には、前期・後期ともにインターネット上でシラバスを確認していましたが、前期の場合は申請のタイミングが学期開始よりもかなり早かったため、当時は昨年度のシラバスしか確認できませんでした。シラバスの内容だけで分からないことなどは相手先の大学の学務係や授業を担当している先生などにメールを送って質問していました。また、派遣留学生(交換留学生)の手続きはほぼアナログだったので、早め早めに行動しなければいけませんでした。

3-2. 授業内容、方法に関して

一つの授業ごとに毎週1時間の講義と1時間の少人数ディスカッションがありました。講義の時間は固定されており、他の授業の講義とかぶってしまった場合には録画された映像を観て対応することができました。講義の後に参加するディスカッションはいくつもクラスが開講されていて、他の授業の講義やディスカッションの時間にかぶらないものを選択して受講しました。どの授業も基本毎週大量の読み物の課題があり、中には、それに基づいた小テストが定期的に出される授業もありました。課題は全てMoodle上で提出します。最終試験が課される授業もありますが、それも会場に行き、パソコンを使って回答するものでした。(ここまで私が所属していたArtsの状況を書いてきましたが、学部ごとに授業形式が全く異なる場合もあるようだったので注意してください。)

3-3. 語学力について

相手先の大学が提示していた条件のスコアをクリアしていたことから、英語にはそこそこ自信を持って渡航し、日常会話では困ることはほとんどありませんでしたが、ディスカッションの際に前に出るほどの力がないことに気がついて落ち込む毎日でした。大学で非母語話者向けの英語教室が無料で開講されていましたが、日常会話をメインに学ぶ初級クラスは語学能力を伸ばすと言うよりは同じ留学生の友達を作る場といったような雰囲気、学術英語を学べるクラスはそもそも開講されているクラスが少なすぎてスケジュールに合わず、現地でインプットの機会は無かったように思えます。

3-4. 図書館など学内施設について

私が滞在していたメインキャンパス内には大きな図書館が3つもあり、文系総合・法学系・理学系に分けて資料が保管されていました。それぞれの館内には自習ができる席がたくさんありましたが、授業が行われている時間はいつも混んでいました。また、図書館内をはじめとした様々な場所に食事ができるカフェやフードコートがあり、どこでもご飯が食べられて便利でしたが、物価が高いこともあり、毎食そのようなところで食事をしてしまうとお金がなくなってしまいそうでした。

3-5. その他

特に無いです。

4. 生活面

4-1. 住居について

学内の寮に滞在していたのですが、正直に言って最悪の環境でした。アクセスも治安も良い学内の寮はどこも家賃が高かったのも、キッチンやトイレが共有の一番家賃が安いところに入寮したのですが、一部の住民が共有スペースを汚いままに放置していたり、夜間に騒いでいたりなど、ストレスが溜まる毎日でした。特に前期は騒音問題がひどく、職員側の対応もいまちはっきりせず、一時はちょっとした口論になるなど、前期と後期の間の長期休暇でその住人が退寮するまでずっと問題が続いていました。ただ、先にも述べたとおり、教室までのアクセスも良く、田舎町ということもあり夜になると人気もなく真っ暗な学外の住宅街に比べ、夜も人通りが多く明るい学内の寮は、立地と言う側面ではとても便利なものだと思います。なので、あまり他の人との距離が近すぎない方が好み、自分の部屋では静かに過ごしたい、といった方は(私はそうでした)、多少家賃が高くとも、生活に必要な設備が全て揃っている部屋を借りることをお勧めします。

4-2. 食生活について

学内・学外ともに、様々な国の料理を食べることができましたが、日本で食べられるような味付けの日本料理が食べられるところは都心まで行かないと見つけられなかったです。また、外食は高いのでほとんど自炊で済ませていたのですが、食材はバスで5分くらいの近所のスーパーで週に一度買っていました。当然ですが、売られている食材のラインナップが日本と違うので慣れるまで大変でしたが、自分の口に合うインスタント食品を見つけてからは少し楽になりました。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

寮にいたりときや授業を受ける時、自習をする時など、基本いつでもキャンパス内にいたので学内Wi-Fiを利用していました。外出時などのそれ以外の時に携帯を使用するときのために、キャンパス内に店舗があったOPTUSという通信会社のサービスを利用しました。プランに加入する際には自分の留学期間をスタッフの人に教えて、一番自分に合ったものを紹介してもらいました。

4-4. 服装について

あくまで自分の感覚ですが、千葉大学の学生たちよりもみんなの服装がバラバラなように見えました。化粧をバッチリしている人もいれば、全然していない人もいたり、各々が好きな格好をして周りのことをさほど気にしていないようでした。全体的に、ラフな格好をしている人が多い印象を受けました。

4-5. 健康管理について

特別なことはしていませんでした。風邪薬や整腸剤などの常備薬は日本から持ってきたものを使用し、使い終わりそうになったらスーパーマーケットで揃えていました。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

幸いなことに、保険制度を利用する事態には遭いませんでした。OSSMAは月に二度安全確認のメールが届くので、反応するようにしていました。

4-7. 課外活動について

渡航後すぐに日本文化が好きな人が集まるというサークルに入りましたが、雰囲気あまり自分に合わなかったのですぐに行かなくなりました。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

長期休暇中に都心で行われていたランゲージエクステンションのイベント(お互いの使用言語を教え合うイベント、千葉大で言うLEXのようなものです)に参加しました。イベント自体は上質で、慣れない言語にも関わらず長時間にわたって色々な国から来た人たちとの会話を楽しむことができましたが、そこで連絡先を交換させられた人からしつこく連絡が来るようになったので1回きりで行くのをやめてしまいました。純粋に言語を勉強したい人もいれば、ただ友達作りをしたい人(というかそもそもそんなのかもだいぶ怪しい人)もいるイベントでした。

4-9. 日本から持参してよかったもの

普段使用している常備薬があったことで少し体調を崩しても安心できました。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

語学勉強などの教材本です。渡航前に留学経験者の人に「必要無い」と言われ、それでも空いた時間に少しでも勉強できたら、と数冊持って行ってしまったのですが、先にも述べたようにインプットができる時間はほとんど無いので、ただ荷物を増やしてしまっただけでした。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

どこにも遠出しませんでした。

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

たまに日本にいる家族や友人たちと電話などで話すようにしていました。

5. その他

5-1. 留学先大学について

千葉大学も比較的キャンパスが広い方だと思うのですが、モナシュ大学はもはや一つの街というくらい広く、慣れるまでは時間がかかりました。先生方は(少なくとも私が会った人は)みんな優しく、分からないことがあれば学生たちが遠慮なくすぐに聞けるような空気づくりをされていました。自分の他にも国外から留学に来ている学生が多く、学内全体で留学生への対応が整っていたように思えます。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

私からは特にアドバイスできるようなことも無いのですが、なるべく渡航中は自分のストレスが増えないように生活するのが重要だと思います。ただでさえストレスが溜まる毎日になると思うので、せめて余計なストレスが増えないよう、面倒な人付き合いはどんどん切り捨てていくなどすることも時には大切だと思います。